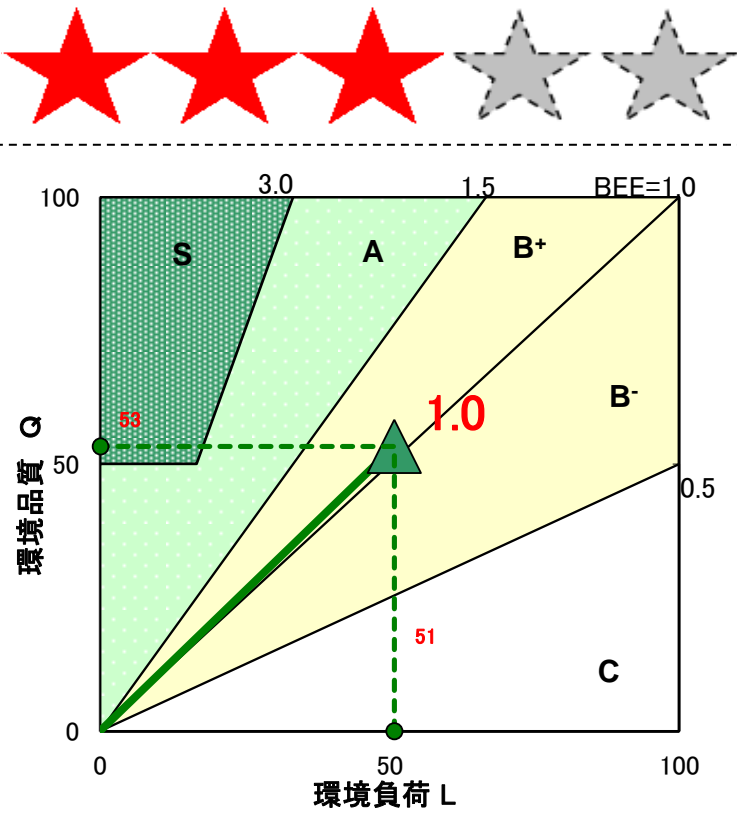


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)菊陽マンション新築工事	階数	地上6F		
建設地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北3丁目4063番1	構造	RC造		
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	143 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2013年8月 予定	評価の実施日	2012年11月16日		
敷地面積	2,349 m ²	作成者			
建築面積	663 m ²	確認日	2012年11月20日		
延床面積	2,834 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

94%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		67
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	65.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	71.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	72.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	63.0

■ 熊本県重点評価基準

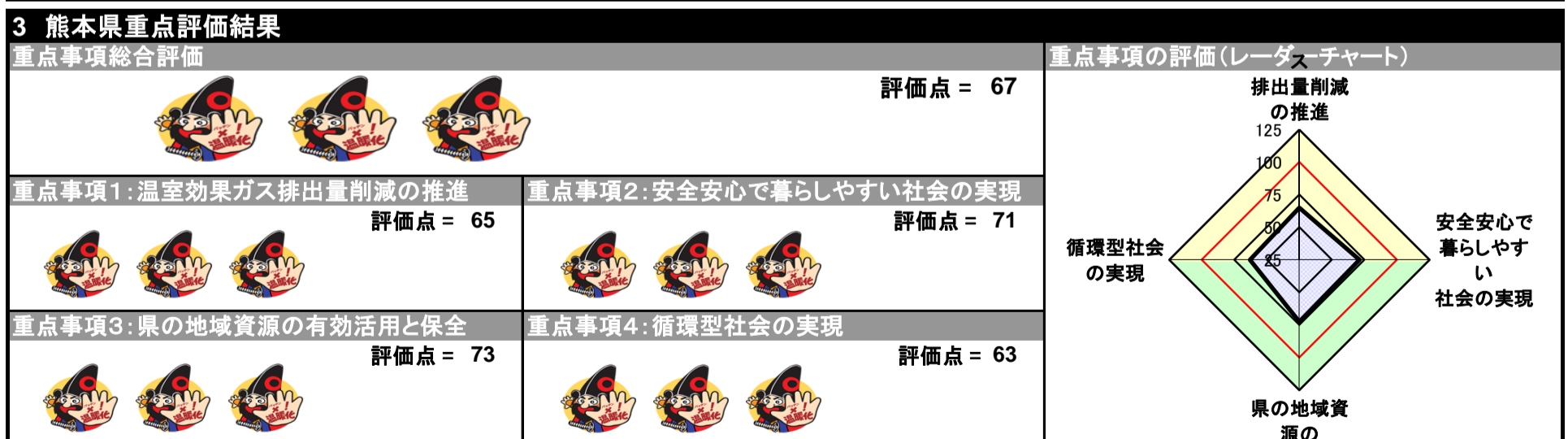
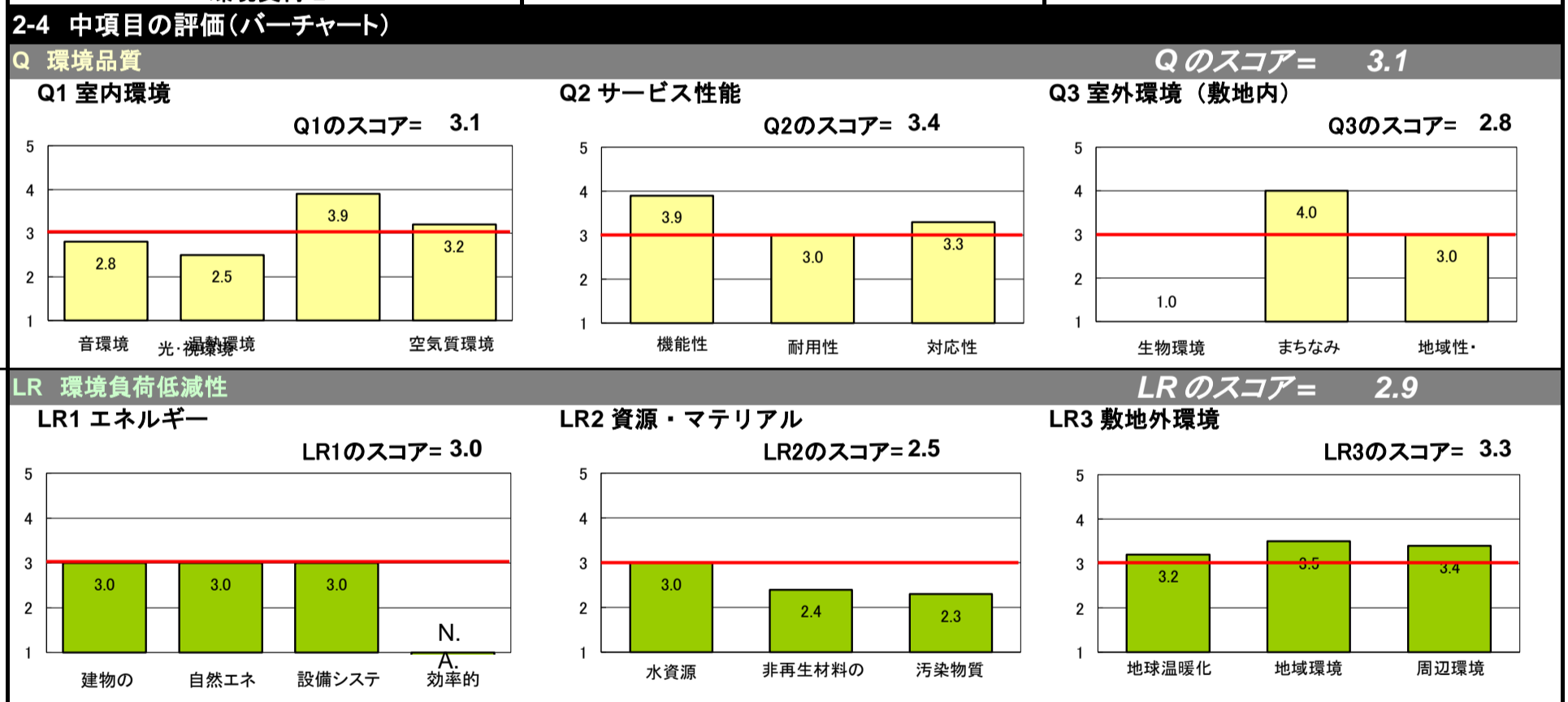
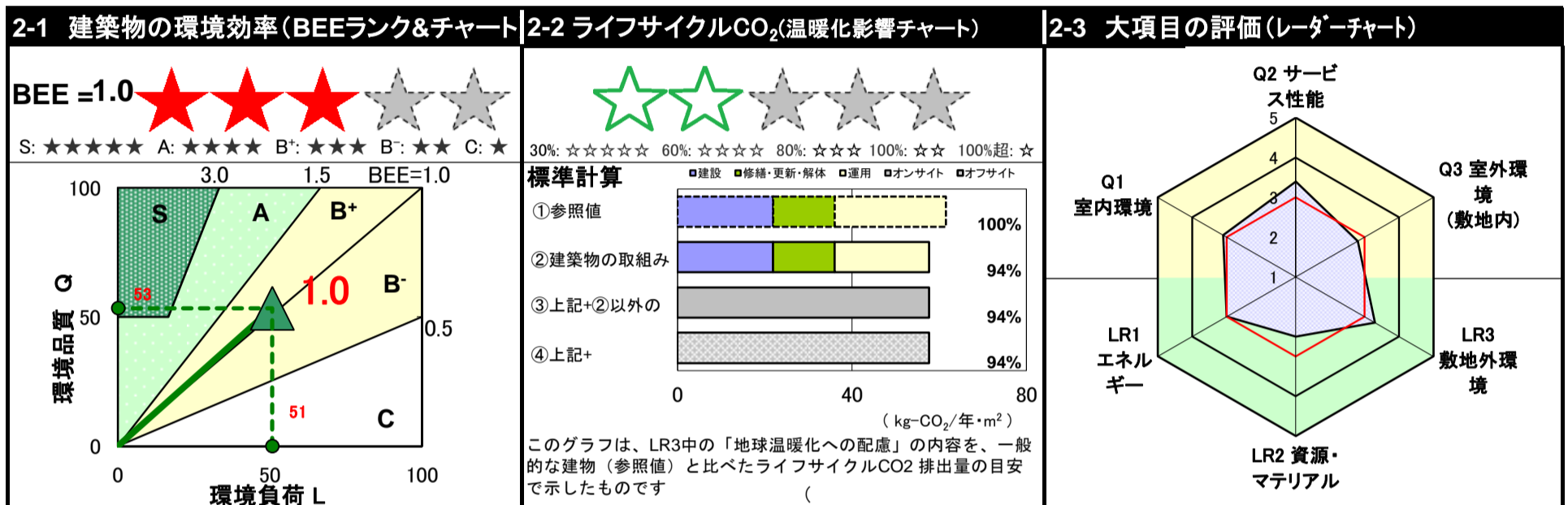
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-Ncb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)菊陽マンション新築工事	階数	地上6F
建設地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北3丁目4063番1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	143 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年8月 予定	評価の実施日	2012年11月16日
敷地面積	2,349 m ²	作成者	
建築面積	663 m ²	確認日	2012年11月20日
延床面積	2,834 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)菊陽マンション新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境			0.40					3.1
1 音環境		3.0	0.15	2.8	1.00			2.8
1.1 騒音		3.0	0.50	3.5	0.50			
1 室内騒音レベル	<住> 寝室40dB	3.0	1.00	4.0	0.50			
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	2.2	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	2.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		-	-	-	-			
2 温熱環境		1.0	0.35	2.6	1.00			2.5
2.1 室温制御		1.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		1.0	0.63	3.0	0.63			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		1.0	0.38	3.0	0.38			
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25	4.0	1.00			3.9
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.0	0.50			
1 屋光率	<共> 風除室20.80% <住> BタイプLDK2.40%	5.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30			
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 屋光制御	<住> 庇、カーテンを設置	2.0	1.00	4.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.0	0.25	3.2	1.00			3.2
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38			
1 換気量		3.0	1.00	3.0	0.33			
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の窓面積	-	-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		2.4	0.40	4.0	1.00			3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応	光ファイバー通信の採用	-	-	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40			
1 広さ感・景観	天井高:2.5m	-	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管、汚水管、排水管にB以上を使用、Eを不使用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	光ケーブル採用、浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			2.5	0.29	3.4	1.00
3.1 空間のゆとり			-	-	3.8	0.50
1	階高のゆとり	階高:3.0m	-	-	5.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			2.5	1.00	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		周辺景観との調和、緑地による景観形成	4.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化			3.0	0.40	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!	5.0			
集合住宅の評価			3.0			
4 効率的運用			-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63	-	-
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.22	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	1.00	-	-
3	冷媒		-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		高効率照明設備を導入	3.2	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		敷地内緑化・屋根に高反射材採用等による熱的影響の低減	4.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照障害の抑制	第一中高層住専の1ランク上の基準(北側の第一低住専)を満足	4.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物まわりに緑地等を配置し、前面道路側には木材を使用した塀を設け、周辺環境（元気の森公園 都市緑地）を考慮した緑に溶け込む配置計画・色彩計画で景観に配慮した。

Q1 室内環境

南面居室の窓を大きくとり昼光利用と自然換気をするとともに、庇とカーテンを設置して昼光によるグレア対策をしている。

Q2 サービス性能

天井高2.5mを確保し、広さ感を高めている。

給排水管には耐久性の高い材料を選択し、長寿命化を図っている。

主要な設備機器および通信・情報設備は地上設置とし、浸水の危険を免れている。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺景観との調和を図る色彩を取入れ、敷地内には緑地や木製フェンスを配置して景観形成した。

LR1 エネルギー

外皮は日本住宅性能表示基準等級3

共用部の照明設備は高効率のものを採用している。

LR2 資源・マテリアル

主要水栓に節水コマを取り付けている。

LR3 敷地外環境

敷地内緑化や屋根材に高反射率の塗料を採用する等、熱的影響の低減を図った。

日照阻害を抑制すべく、1ランク上の日影規制基準を満足している。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)菊陽マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	67.3
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				65	0.40	26.00
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				72.5	0.20	14.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				63	0.20	12.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数